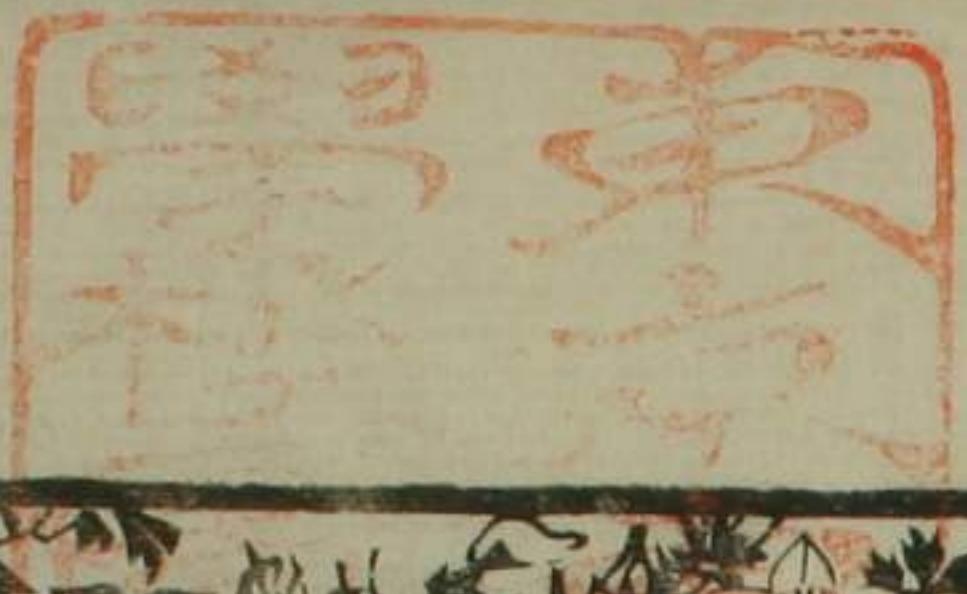


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

JAPAN

於  
ス  
62



繪本通俗三國志七篇卷之二

目錄

仲達與兵寢漢中

孔明四出祁山

孔明祁山布八陣

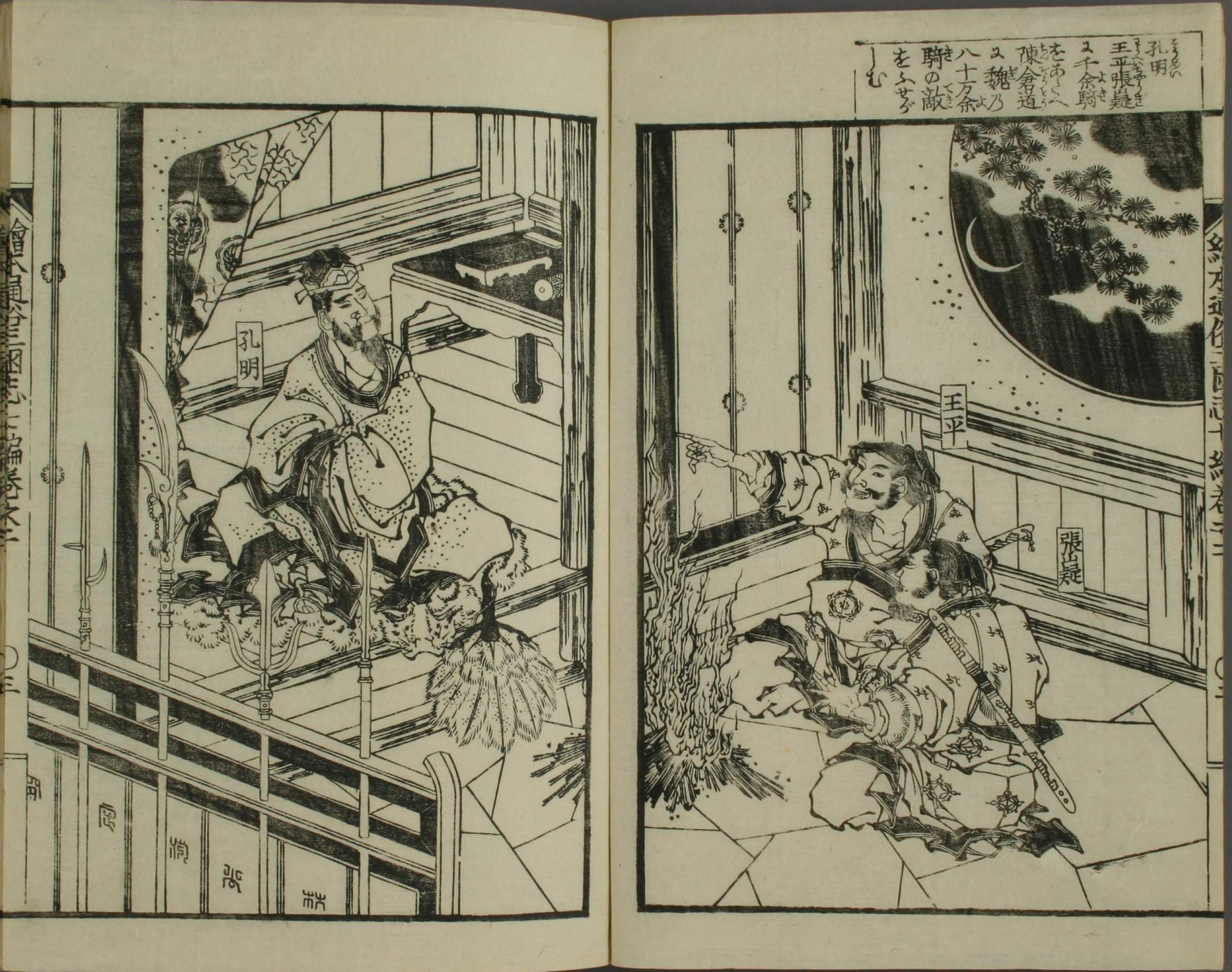
繪本通俗三國志七編卷之二

仲達與兵寇漢中

建興八年秋七月。魏の都督曹真が病をして、平復へけり。表てたてまつりく。魏主曹叡もやけろく。蜀の勢もさう。蜀を犯して、中國を煩ふ。わがのすゑよし。さしこそば必ず大ちる。害である。今秋のとどきとれよ。至り。人馬ともよ安閑。臣孫ぐくへ。仲達と大軍を引く。直に漢中もよじよせ。蜀の奸黨を打ち滅ぼす。海内を掃ひ清んと望け。曹叡太よろび司馬懿。近比荆吳と下さう。早くやへ上せよ。是事で義をへとて。偏殿を生く。侍中劉曄も問へ。やけろ。曹真。今朕をもくらて。蜀を伐へと。卿が意い。劉

劉曄答て。大臣とよ臣が意を相合へり。今わざ伐タム。後  
をあらぞ。悔あらん。とりひけまへ。曹叡よろまび。司馬懿が曰  
く。待て。兵を起さん。とりふ。劉曄志アリ。ぞくして家を回せよ。  
百官ひそかに來りて。問て曰く。さる。又天子兵を起して。蜀を  
討んと宣へり。足下の事いどありひる。劉曄が曰く  
。この事。あらぞ。若今うち。是を伐バ。後。軍馬を費せん  
。あらぞ。若今うち。是を伐バ。後。軍馬を費せん  
。天子もとより。怕れ。安んぞ。たのとあらん。百官黙然  
と。而て。回り日暮。楊暨とりふ。その笑にて。やけろ。向よ  
。劉曄も。蜀を伐え。とりえり。今。この事。あらぞ。と。何ぞや。  
且と天子。又見く。問へ。内へ。入へ。奏へ。と。曰く。陛下あ

んぞ。兵を起して。早く蜀を伐り。がる。曹叡笑ひて。曰く。汝の書  
生す。安んぞ。兵法をあらん。楊暨曰く。劉曄は先帝の謀  
士也。已々蜀を伐り。と。勧た。臣。たのめ。や。曹叡  
あらの内。よ。あら。如何。と。劉曄。深き所存。あら。と。もし  
ひけり。色を正して。曰く。劉曄。而て。朕。またの事。とも。だ。  
楊暨曰く。劉曄外。生く。百官。又。むうりて。蜀へ。あら  
伐べ。くらだ。却て。徒々。入馬を費せん。とりえり。臣。またの故  
又。疑ひ。と。あす。曹叡を。あへち。劉曄を。召て。やけ。汝朕  
を。もくらで。速く。蜀を。伐へ。と。えり。今。又。百官。又。向て。伐へ。す。と。云  
へ。い。あら。ゆ。人。ぞ。劉曄が。曰く。陛下。あよ。と。て。き。か。へ。曹叡が  
曰く。今。楊暨。きた。つて。朕。又。詔。と。劉曄が。曰く。臣。よく。思



蜀へあらぞ伐べらうぞ。曹叡さるみと文ふみく大だい笑わらひまくありて。楊暨やうき志おもひて出でけり。劉曄りゅうじ色いろを正ただめて曰いく。臣常じんじょう陛下へいしょへ飽あまで。兵書へいしょを見みりてとむり。實じつ其その玄機げんきを志おもひゆ。昨日きのう蜀しょくを伐なすとやうへ。と一大事だいじの機密きみつ。夢ゆめの間まよりも外ほかに泄せきさんとて。懼おそれる。ふんぞ他ほか人ひともむづく。是これを詔のらん。兵ひを用もち道みちへ詣まい。事ことひよ。發はせざる。宜うく人ひともあらう。むづく。臣ちんの史し。百官ひゃくかんもむづく。必ひつを伐なすをとづり。陛下へいしょも。楊暨やうき。卿きみが言いふ。あらせ。といひけり。曹叡さるみ。悟さとりて。曰いく。卿きみが言いふ。金玉きんぎょく。朕わたくし。眞まこと。とて。此こより重かたん。後のち十日じあらう。經へて。司馬懿しばいす。

あら荆せうを伐なす。回かけ。曹叡さるみ。蜀しょくを伐なす計けいを義ぎをも。司馬懿しばい曰いく。臣ちんが荆せうを下さす。も。吳ごの國くにの体たいを同どうひえ。蜀しょくの國くにを攻こうん。爲ため。臣ちん。荆せうをあら。能のく。能のく。同どうふ。孫權そんくわん果ごして。兵ひを搖ふさ。此こ間ま。よ。喜よび。曹真さるま。大司馬だいし。征せい西せい大都督だいとくし。司馬懿しばい。起お。直ただ。蜀しょくの國くにへ。むづく。曹真さるま。司馬懿しばい。每まいと立たて。長なが。安あく。諸將しょじょうの手配しを定さ。郭淮くわい。孫禮そんれい。ホ。會合かいが。劍門けんもん。關かんを。急き。告げ。孔明こうめい。病び。平復へいふ。毎まい。軍馬ぐんば。調練とうれん。陣ぢの法ほうを。あら。近ちか。魏ゑいを。攻こう。人ひとと。義ぎをも。早はや。

駆きたり。此よすを告げ。孔明。王平。張嶷。よんと曰く。  
魏の大勢。國よせ来る。汝二人。千余騎。率し。陳倉の  
古道。守りて。魏の勢を難所。我。大軍。そとの人。  
漢中。進ひ。王平。張嶷。どろひて。やけろへ。我。魏  
の勢。四十万。我。八十万。号す。其。泰山のど。今  
千余騎。ゆりて。是を拒ん。其。泰山のど。今  
より。大勢。むけんと。徒。士卒。勞せんと。故す。王  
平。張嶷。ひよ面。合て。生ざり。孔明。目。打向。  
員。回りたり。汝。ホ。衆。あらも。早兵。引。打向。  
二人。哀。やけろへ。巫。相。某。二人。親。さんと。あらが。口。まの  
不。首。刎え。争。千余騎。司馬懿。八十万。當る。

金き。孔明。笑ひて。曰く。あよと。さ程。愚痴。あ。今。改  
ホ。遣。と。仔細。あ。昨夜。天。天文。見る。畢星太陰。乃  
分野。よまと。此月の内。あらを。大雨。あらん。魏の勢。何  
十万騎。あ。とも。安ん。險阻の地。深。入せん。大の。文  
勢。と。向。人馬。疲。らまん。と。か。ま。我。漢中  
あ。氣力。難。魏の勢。病。疲。志。あり。天。気。乃  
を。ろ。晴。待。大軍。と。一。蹄。進。ま。と。逸。以  
て。勞。封。とい。ひ。けど。バ。王平。張嶷。喜。び。兵。そ。て。生  
み。けり。孔明。あ。大軍。引。漢中。主。不。この。要害。ま  
り。て。亮。ける。業。用。意。長。兩。拒。備。あ。と。三。あ。さ  
う。安。く。一月。中。休。息。せ。と。衣。食。賜。軍。馬。難。王

平張嶷へ。千余騎よて陳倉の難所ちんこうしょを守り。高阜たかおかの上うに陳ちんを取とく。假屋さくやと構くへ長雨ながあめと拒きぐ用心おもひを志おもひたいたける。此時曹さ真、司馬懿じまい大軍だいぐんを引ひいて陳倉城ちんそうじょうを來きけろ。在あ家いえ一宇いちうもある。りけりけく。其地そのちの人ひとを求めて仔細さいざいを問たず。孔明くみやうをも。退しりぞく。とだ。ちう人の故ゆゑともあきえ尽つくく燒拂やきふく通といとい。以よは曹真さうしん直ただ。又陳倉道ちんそうぢようより進すすみんととけ。司馬懿じまい止とどて曰いく。うあらうぞ。かろくろく進すすむべ。我われ日夜天文あめうんを見る。畢星太陽ひきょうたいようの分ぶん野の。よそととる。此月このつきの内うち必ひど大雨おおあめ。若わ軽かるく深ふかく。勝かつとかの苦くるしみ。万まん一打負うちひき。人馬じんばをあひど苦くるしみ受うけん。ちのととく退のく。も難ひのく。只ただの不ふ吉よき。ざらく逗留とるり。雨あめを拒きぐ用意よおす。又曹真さうしんとと従つひ。木きを伐なく假屋さくやを造つら

せける。又十日を経たつて。終つく。大雨車軸くるまじくを流ながす。陳倉の城外平ひら地水ちみず深ふかきと三尺さんしゃく。又ときとき魏魏の勢しを水中なかみあう。軍ぐん器ぐんぎ。又ぐく湿しづひ人馬じんばととり。苦くるんで。昼夜ちやうやをともも安やす。已い。又アア続つづて。三十余日よじ。又アアケア。馬ばを飼く。草くさもあく。兵糧ひょうりょうの道絶きく。死死たる者の救すくをあらざざ。尽つくく病伏やまいふて。怨哀怨あい。又。休やす。傳つたく洛陽らくよう。又また魏魏主し曹さう叡えい。壇だんと築たく。自じら晴はれと祈いの。易たかく破くる。又また國こくをあらざざ。况むしろ大おほ雨あめ。降お統とう。味み方ほうの軍民ぐんみん尽つくく病伏やまいふ。民みんがもと國こくの本もと。昔周むかしの武王ぶわう軍ぐんを還もどして。殷えんの仇滅しゆめつ。陛下へいげをも。やうよ此勢このせいをも。返もどす。

徳をりて民を類ひたり。吳蜀の仇をせんとやけ  
シバ曹叡さくいあまきよ志しとぞぐ。即時そくじよ詔ほを傳つす。師しを返かす。是  
とた曹真司馬懿いハ雨あめの休やすりと患いたずらひ連れん陰いん三十日じ軍士ぐんし皆  
戦たたか心こころす。若わかヒ安あんみ動うごく。落行おちゆハ悔くやるとも甲斐かいあるヤド。不如軍  
を取とりて回まわらんと議ぎも。不ふ。忽こち天子てんし詔ほめり。もす軍を  
回まわらすと告げ。曹真さうしんが曰いく。蜀の勢せいりあとより追  
べ。いふせん。司馬懿い曰いく。二手の勢せいを谷たにの内うちに伏ふく。後陣こうじん  
と。大軍だいぐん志しだひと亂らんとぞ退しりぞく。一いちにて志しげぐとぞ回まわける。  
孔明こうめいハ一月の間ま秋雨あきあめの晴はるかざると計そなへく。大軍だいぐんを赤坡せきばに移うつす。自  
ら一軍いつぐんを引ひく。城固じゆくは陣じんと。然大將あつだいじょうを集つてりる。推量すいりょうす  
ム。魏の勢せいの長雨ながあめは疲つかひ苦くるんで。今いまやうやく引退ひりぞく。我わ今  
とあれ。我別わべつ又計そなへありとて使つかひを回まわける。

孔明四出祁山

去程よ。魏の軍勢ぐんせい尽つくく。引退ひりぞよ。其聞ききありけり。蜀乃そ譖ほのめ  
大將だいじょう孔明こうめい。見みて曰いく。今いま魏の勢せいへと大雨おおあめ。病や  
うれ氣うれを落おちして逃のがる。某もしあるのとたと乗のく。速はやく追お討うべ。  
人も生うてへ回まわき。巫相うせう。追おけり。孔明こうめい答こたへて曰い。司  
馬懿まい。兵ひを用もち。今いま退しりぞいて國くにと。そども必ひを路じよ伏ふく



兵せん我り。あとを追ば。あらざる計の中。不如と  
が遠く去く後。まことに却く斜谷より。もと直に祁山を取る。魏  
の人をして拒ぐと能ひざらう。然る諸将問て曰く長安を攻る  
よ路條多し。亟相あらん。毎度祁山を取る。孔明が曰く祁  
山は必ずも長安の首なり。陇西の諸郡より。若勢の上ると  
は。そのうち祁山を通らざり。とよりとあり。殊更前へ渭水又臨。その後へ斜  
谷又靠。左又出。右又入。兵を伏せ。是武を用ゐる地なり。我  
大の更に。また祁山を取く地の利を占。諸将を拜服しけれ。  
孔明をあへて魏延。張嶷。杜瓊。陳式。又命ド。箕谷より進ませ。  
馬岱。王平。張翼。馬忠。又命ド。斜谷より進せ。俱ニ祁山にて坐  
合。八人の大将をあ兵を引く。打立けり。孔明自ら大軍を

統。関兵。廖化を先鋒にして。跡を繞て進發。そのとた曹真  
司馬懿。追蒐る敵あり。けよべ。尽く引退して難所を超  
今ハ引取とく。伏の勢も回りける。其後十日あまりと經  
ども。絶て蜀の勢の信息あらず。又。曹真が曰く。大のをどぶ  
長雨。又道この棧道とぐく。損ト落て。蜀の勢が。もと示すが志つて  
きたる。もし知る。あらん。司馬懿曰く。蜀の兵をあらき跡を  
あたゞめて出来。そし。曹真が曰く。汝故い。司馬懿が曰く。是  
ひて。天氣を。よ晴たる。孔明。追ても坐さる。我伏兵あら  
ん。とぞ。坐して。是ゆ。又。ホレ遠退きたる。とぞ。まく  
又生く。祁山を取んと謀る。やみあり。曹真。坐て。服せざりけ  
れ。司馬懿又曰く。足下。あまとて疑ひ。ひよ。孔明必を。幸

分れて箕谷斜谷より来る。我足下と兵と二手を備へて。  
西方の谷を守る。十日の内より蜀の勢士がんば我百人紅  
粉を塗。身又女の衣裳を被て必ず足下の前へ来て罪を服せ  
ん。曹真が曰く蜀の勢は十日より内に上ば我天子の賜たる玉  
帶一條名馬一疋と御邊へあなたへんとて兵と二手を余ち。司馬  
懿は祁山の東へ。箕谷の口を守り曹真は祁山の西へ。斜谷  
の口を守りける。司馬懿は孔明が必ず生んとて料り。一軍を  
谷の間へ伏置。外の勢は四方を分く。晝夜まことに守ら  
せ。常々夜巡の内へ難く自ら陣と戒しらける。又本營中へ  
一人の偏将をあとひで怨と哭き。その間の長雨。昼夜安き  
間もあらう。今又あの不吉逗り。敵も來らぬ。此の如く氣力

を費す。無用ある贈あんべどして多の人を苦やきふとあらそ安  
らねとつぶやくものありけり。司馬懿本陣へ回りて。人の  
偏將をよびよせ。又怒りてやける。朝廷軍士を難ふと申す。  
乍一時の用立人。が爲め。汝あよとて怨の言を生じて。諸人の  
心を慢らしむる。偏將を以て服せし。某をもみやむことは。あ  
る。詭言みてはやうんと云けり。司馬懿をあへち一座を  
居り。その生じて證據ともう。偏將迷惑を言ふ。  
忽ち罪を服しける。司馬懿曰く。我曹真と妄々贈をも。又  
あつた。然蜀の仇を拒ぐん爲め。若敵を勝とたへ諸軍の  
功を記して天子を奏す。都々回く恩賞をやあく。汝をだ  
り。怨言を生じて。自ら衆を得とり。引生じて首を刎よと下知

されば武士ども。その首を斬ぐる諸大將もとを以て。とあら  
と冷しけり。司馬懿が曰く。汝ホ諸將もあす。心を尽して敵を  
待。又中軍に合図の鉄炮を放ひて。四面より討て生よとぞ。  
今や来ると待つけたり。此とを蜀の大將魏延。張嶷。陳式。杜瓊へ  
二万余騎にて箕谷の道より進ける。忽ち參謀鄧芝きたり。巫  
相の命ありとよびりけり。四将馬を住みて其故を問ふ。鄧  
芝曰く。巫相の命あり。箕谷より向勢へうちうらむ。すく敵の  
伏兵を心えりて。軽々しく進むとあられ。陳式もとすて冷  
笑ひて曰く。巫相の兵を用ひゆふと。何とて期ハ疑ひ多き。只  
日夜よ道といそぎ。不意追うけてあひと討へ。曹真。司馬懿。一  
鼓りて擒とあらん。況や魏の勢力との間の大雨。又甲冑も軍器

も尽く毀き損どく。我またよと退き回る。只まゝよ追うけ。掩  
殺をそし。何ぞ斥時も怠らん。またよへ巫相をとみ某示ふ命  
ドてまゝ箕谷より進ぐ。斜谷よりよちる勢とひとく。生  
あひと宣り。今又まむへくらむとへ是手の裡を反ひ  
どきの号令ちうりといひけり。鄧芝曰く。巫相の計一  
て中をとどめとあり。御辺をだりよ吉を動かすとあられ。陳式又  
笑ひて曰く。巫相の計。中をといふとあくん。街亭の敗へ有  
まきと。魏延も善て孔明。又不足の意ありけり。共よ嘲  
やけろへ巫相をたゞし。我ホが計を用ひて。子午谷より半晩  
を長安。又よとよばと。洛陽とも攻取。今とびく祁山  
よ生よとびと。何の益うあるや。已ニ大將となる人一言の下知てあ

して兵をや半途まで生なまく又進むとあられとへうる事で陳式曰くそれへ兎も角も我乎へ手勢五千余騎を引分てたちよ箕谷すり生ぐ人すりまた又祁山て取陣屋を構て巫相の羞う羞ざるうせんゑーとて已々兵を引て生けとべ鄧サ再三諫忌ともまろざりゆ急に引回して孔明を報をきて陳式は五千余騎を率いて其夜箕谷すり進みけるが敵一人もそぞぎりけりと馬上にて大笑ひ人をあ孔明を鬼神と通ぜる計ありとりそらが我いまその證ヒとたりと嘲て二里をかゝり止けよと忽然とて鉄炮をひきと程うそあれ四百より魏の伏勢一度も起る陳式がどうひてまろと退くとそれを敵の大勢野と滿山漫り百重千重より圍んで漏て至

べきよしとありけりとへ陳式今とまきりと戦ひけりふよ一彪の軍馬喊と造りおへ入へ陳式を救ひ生む是をあちと魏延ちよしと陳式辛き命を助るといへども五千余騎の兵尽封れて僅く四五百人のまきりと戦も痛手を負ひて半死半生あり魏の勢あるて跡すり追蒐けろと張嶷杜瓊生手を以て討散し要害と陣を取て孔明の先見と云神と通ざるとぞ感づける此とた鄧芝へ孔明と見て魏延陳式が無礼の由と語るよ孔明笑ひて曰くさぞあらんと魏延もとより謀反の相ありとれりとて我今まで殺さるへての勇猛にて敵の怕るて憐りんとておもひ先帝と此事といへりと今已とあらむれども我ちとを除へてとたと早馬きたりと陳式昨夜敵の

伏兵又囮まく。四千五百余騎討ミヅ。僅ミツ又五百人のあると。やせども半死半生ミタニシタニナシと告スダけり。孔明カクミンをあも。鄧芝トウジもも。而アリテヤけろ。汝ミタチへ箕谷ミカケ。又行スルて陳式チムシキが心ハコトを安らハシラシし。恐らハムくへ変ハシメルセ生スル。とあらん。我料スル。司馬懿シマイを心ハコトを箕谷ミカケと固スル。曹真斜谷トクガを守スル。我タレを守スルと破ハシムらん。今二手の勢ハサウエをひそみ。敵陣テキジンの後ハグロ又まつらう。む魏ホの勢ハサウエをあらむと走ハシム。と云ハシメルけ。又。鄧芝トウジ辭ハシメル。箕谷ミカケ。又到スルる孔明カクミン。をもへち。馬岱王平マタイウーピンを呼ハスルでヤけろ。斜谷トクガの口ハナ。魏ホの勢ハサウエの守スルあらぶ。汝二人手下の勢ハサウエを引ハシムて山サンをちん。嶺リンドウをよぢて。夜ヨへ道シテ。いそぎ。昼ヒルへ木墻モクヤウを埋ハシム。伏ハシム速ハシム。祁山キサンの左ハシメル。火ヒをりけて合ハシメル。岡オカを生スル。と。次ハシメル。馬忠マヂュウ。張翼ザンキョウをよんで曰ハシメル。汝二人手下の兵ヒサウエを率ハシメル。山側サンゼツの小路コロよ。

り。夜オナハク行ハスルて昼ヒルへ伏ハシムせ。直シテ又祁山キサンの右ハシメル。火ヒをあげて合ハシメル。岡オカを。馬岱王平マタイウーピンと一度。又曹真トウジンが陣ジンの後ハグロを攻ハシム。我自ら大軍オオハサウエを正路セイロすスルをもと。三方より討ハシム破ハシムる。四人の大將オオハサウエを左右ハシメル。又分ハシメル。うち立ハシメルけり。又孔明カクミン又閔與ミンヨク廖化リョウカイとよんで。耳アツを付ハシメルて計ハシメルと。さきを。自大軍オオハサウエを引ハシムて進ハシメルける。が路ハシメル。又吳班オウバン。吳懿オウイとよんで。密ハシメル。又計ハシメル。授ハシメルて真先マツセン又進ハシメル。ひ。魏の大都督オオトドブ曹真トウジンへ司馬懿シマイと賭ハシメルとあつて後ハスル。蜀シハの勢ハサウエをあらむと。生ハシメル。と。かのんハシメル。と。諸卒ハサウエの怠ハシメルるとも成ハシメル。と。已ハシメル。又七日ハシメル。と。たけと。ども。猶蜀シハの勢ハサウエ見ハシメル。ざく。けと。四十日ハシメルの日限ハシメル。又至ハシメル。又。司馬懿シマイ。又羞ハシメル。と。与ハシメル。と。心ハコトの内ハシメル。喜ハシメル。不ハシメル。又。谷ハシメルの内ハシメル。又。蜀シハの多ハシメル少ハシメル。又。蜀シハの兵ヒサウエをたり。と。曹真トウジン。又。秦良シナリ。又。五十余騎ハシメル。授ハシメルて。は。置ハシメル。た。と。ひ。蜀シハの勢ハサウエたりと。将ハシメル秦良シナリ。又。五十余騎ハシメル。授ハシメルて。は。置ハシメル。た。と。ひ。蜀シハの勢ハサウエたりと。

孔明一紙

の書簡  
渭水の陣をみて  
又曹真をせざる



何とぞ谷の内にて廻りどり旗を伏鼓を休く。十日の中限終るまで。うちたゞ外沙汰もとあられ。今三日の間外すきあらざるよしへ賭へばや我勝たるありとて。中用を体もありけり。秦良へ谷の口に生そ蜀の勢と望みる。尽く引て回る体あつけとべ只追うけよとて。五六里が程馳たりける。蜀の勢一人もえへた。秦良大よ怪く暫人馬とやれやんとて。あ馬より下て息継居る。一人走り来り。此辺の谷にえ。尽く敵の伏勢あつと覺ふと告げ。秦良たちよ高所より上りて伺ひ見る。馬烟あらましく起けよ。早く退けとひやく。四方より喊の声一て前よ人吳班。吳懿。後よ人關興。廖化。さもひよのかて討てうる。前後へ此のとく

岡と。左右はる岩石屏風のとく峙りて。泄て坐べきよ。ありけり。魏の兵膽をひやして。戦へんとぞゆの。一人もあけれべ討るものねとあらば。山の上より降らぬ扶んと。よびりけり。大半の盛を卸で地より拜む。秦良へ岡て破く。逃へと一ける。廖化一刀を斬て落む。孔明討むたる屍を谷の中より棄せ。降人と後陣を置く者どり。物の具。旗幟を取く。蜀の勢五千余騎を。魏の勢を仕立。關興。廖化。吳班。吳懿。蜀の勢を授け。曹真が陣へ早馬を立て。蜀の勢を立。蜀の勢を立たり。秦良尽く討取たりと告げ。曹真信め。して。大喜び暫めて。司馬懿が方より使きた。箕谷より蜀の勢を立。蜀の勢を立。伏兵をりて。四千五百余騎を討取

たり定めて斜谷よりも生ひへん賭やのゝたるるを思ひ  
ぞ。よく御用心あるべと告來りけど、曹真歎く蜀の勢  
争う輕く出來らん。その方へ一人も見えぬと訴て。ひれた  
まひて贈みへとや勝てにと答て。司馬懿が使を回一ける。浩  
布々秦良もて勝軍を收て回ると告げ。曹真喜びひと  
ぞ自ら坐くあとは見る。元来似せ坐立くる蜀の勢秦良が旗  
てさへて。志高くと來りけど、曹真とあへも疑ひざるあ  
忽ち陣屋の後失火ありとびへり。曹真おどろき教  
ひとをもとと免前より閻良、廖化、吳班、吳懿、喊を造りて討  
てかる。左より馬岱、王平、右より馬忠、張翼、鼓を打て崑立る。  
魏の勢四方の敵と瞻て冷し。俄の事あるべ上下と騒乱

て力よ鎗よとひき合程。討るの役を志す。火焔天よ張り。  
黒烟地をあらひ喚き叫ぶ。止ざりけど、曹真一軍もすく一を。  
ゑ身き人逃れ、尋く。外道へ何ぞと走迷。そくて蜀の勢をも  
追う。已ニ討且んとせし。又司馬懿一軍を引て坐來り。輒  
又救ひ坐。曹真辛き命を抜けし。大羞恥。体あひけ  
れ。司馬懿曰く。孔明をで。祁山の要害を奪た。我本の  
も居。早く。早く御辺へひきて。我危きて救ひ。又司馬懿がい  
ちく。先々使の歸てやと。是故。計。中へんと。をき。決。そ  
く用心をも。志す。是故。計。中へんと。をき。決。そ  
け物したる事。かく。國家の計をあへと。渭水の

岸ニ陣セ取ケル。曹真ハ人の内深く慟愧シテ卒ニ氣の病  
トあり。床ニ伏シ起上らモ。是と先孔明ハ十数々打勝て大  
軍已ニ祁山ニ生詰軍をもて後魏延陳式ホシ箕谷よ  
リ。よびよせけヨビ二人恐惶シテ地ニ拜伏を孔明曰く誰  
下知ニ背ク。多の人馬を失フたる。魏延曰く陳式さうニ丞  
相の令ニ用ひキ。深く兵を進ウ。此のとくニ敗ナリ。陳式曰く  
某が兵を進ム。魏延再三モヤシ依テア。孔明曰く魏延  
ハ却ク。汝が聞ミ一を救ナリ。志士氣又科ニ魏延ニ譲リ。詞を  
ざりて我ニ欺ク。かゝるく軍法ニ正セト。下知ノケヨビ武士ど  
も陳式ニ引出一首ニ伐テ牛ナケル。孔明大のとた魏延ニ殺さ  
ざる。後日の用ニ立て。ちのちニ斬ル為ア。陳式ニ首を。然大將  
で忽ちニ殺ミト。ヤナケル。

孔明祁山布八陣

示して帳前ニ梶させ。後來の戒めと。時ニ序侯の士卒きた  
リ。魏の大都督曹真。渭水の陣ニ引籠く。病をもニ危一ヒ  
告げシ。孔明大ニ喜び我一の計あり。一斤の紙をかつ  
て忽ちニ殺ミト。ヤナケル。

と先ニ建興八年秋八月孔明ニ祁山ニ生曹真。司馬懿  
と賭ニよけて心の内羞恥重病を得て渭水の陣ニ引籠  
る。よつて謀将ニむろにて曰く。曹真ニ病甚重也。人を  
長安へ回忌き。今渭水の陣中ニ住まし。病甚重也。  
あすニ謀軍のんと安んじんが為。又少し退き。病を難ふ  
きのち。我一紙の書簡を送ラ。曹真忽ニ亡一ヒて斜谷中

みて降人又生とする勢とよびあひて汝ホヘミア魏の士卒あれ  
跡ニ残一妻子どりの討ともやゝ内と哭らんノトキ味  
方ニとむむくらを。今宵ノトモ回もとトリハけ日。ニア拜  
謝一ト涙をあがむ。其内ニ長く蜀の民たゞひと願う。百余  
人あづけとく孔明ちとぞ殘留クらんといひゆきのニ向て。ヤナ  
る。曹真ひそく又我ニ約をあひとめ。汝ホヒマ幸ニ回る。是  
テ曹真が陣ニセクリ達せよと。各闇ニ封ド。渡リけれ  
ミ。喜び踊りて。渭水の陣ニ到リ。孔明が情ニやれて恙ま  
く回さとたりと語けとく司馬懿笑げて曰く。孔明恩とやつ  
て。ヨク軍の心をむきぐん為くとして。その勢を戦ひよへ用ひど  
ア兵糧を運せける。一人曹真が陣ニ行う。の書間ニ生けとく

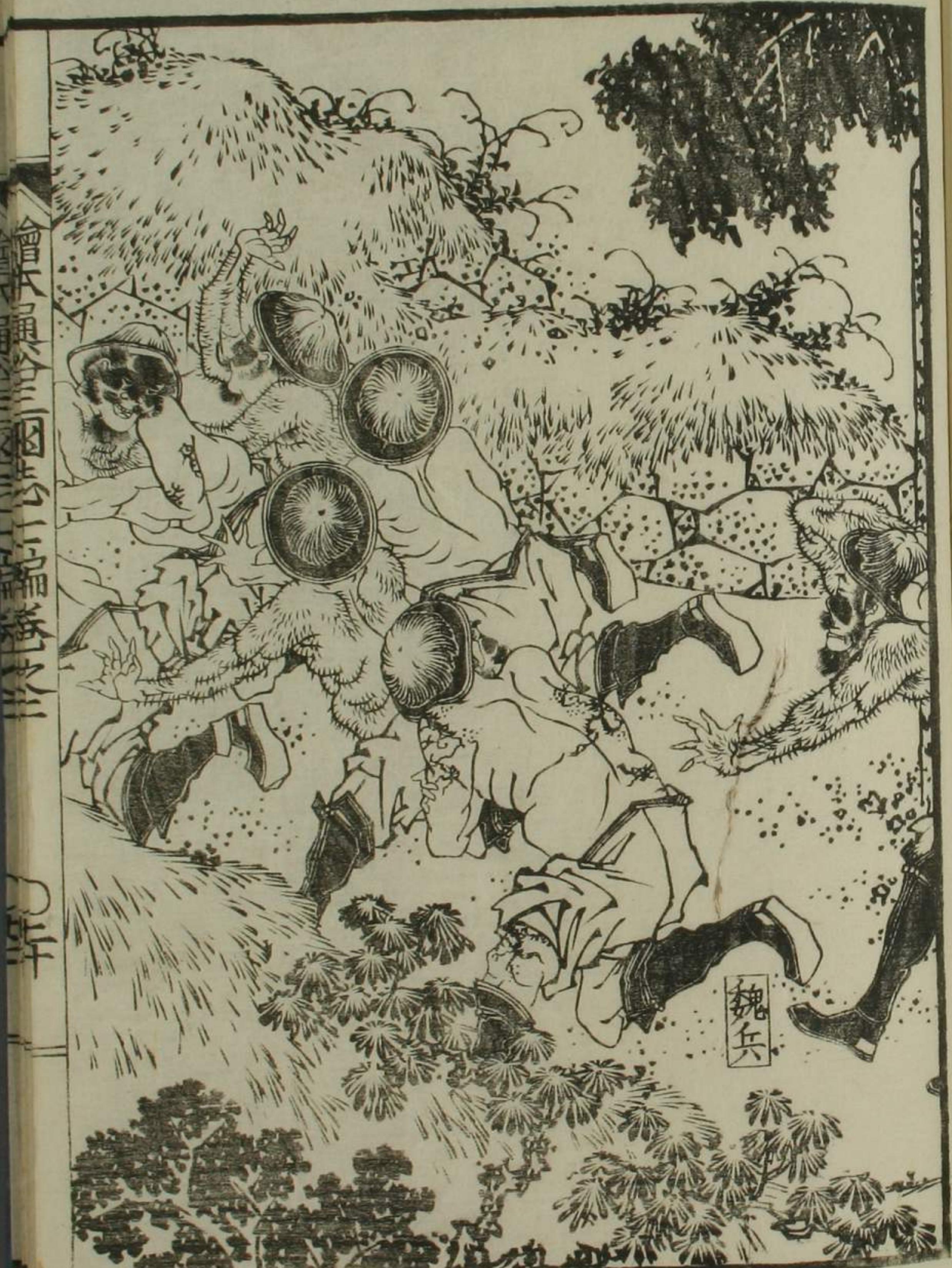
曹真。又ニ事やらんとして病を扶けてあひて。アノメの書曰  
漢丞相武卿侯諸葛亮致書於大司馬曹子丹之前。切謂  
夫為將者日就月將能去能就能柔能剛能進能退能弱  
能強不動如山岳。難知如謹陽。無穴窍如天地。克實如大  
倉。浩渺如四海。眩曜如三光。預知天文之早。滂先識地理  
之平。康察諱勢之期。會揣敵人之短。長嗟爾無學之後。  
輩上逆穹蒼。助篡國之反賊。称帝号於雒陽。走殘兵  
於斜谷。遭霖雨於陳倉。水陸困乏。人馬猖狂。拋盈郊  
野之戈甲。撇棄滿地之刀鎗。都喪心崩而膽裂。列衣將  
軍鼠竄而狼忙。無顏見關中之父老。何面見相府  
之庸堂。文官秉筆而記錄百姓。衆口而傳揚。仲達

聞陣而惕々子丹望風而遑々吾軍兵強而馬壯大將虎奮以龍驤掃秦川為平壤蕩魏國一作二丘荒

曹真よも子曰て恨氣胸々塞り。その日乃暮又亡びけどバ司馬懿死て車々のを維陽々送りて葬らしむ。魏主曹叡たのすをみて司馬懿又詔を降し。大軍を進て孔明と雌雄を決せよと下知けど。司馬懿を支へ。孔明が陣々戰書をふくる孔明をとて。諸将をあわせ扱へ。曹真死て。明日とくろれを決を下して。まへ司馬懿が使を回し。其夜ひそかに姜維関興とらじて計を授け。次の日三門から祁山の大軍を引いて渭水の前まで出むる。此不へ一方の大河流きて。一方へ山高し。中又ひそかに平野ありて。馬のうけ引自在あり。誠ニ無双の戦場ぢや。去おどよ

西方の軍勢相近て喊を作り。矢倉の鏑を射し。鼓角のひき志昂りけど。魏の陣々門旗と鬨く。司馬懿ゆうくの大將と從へ馬と牛。蜀の陣と望ら。孔明四輪の車々のり手々羽扇をうけて坐む入り。司馬懿太音あげて曰く。我君亮の舜ヌ禪り。ナハ法ヌ効て相傳て二世て経とり坐ら中國て鎮て。いまと吳と蜀とぞ。亡びたり。故ち。汝の元より南陽の一耕夫。天運の農を志すぞ。妄々師を坐して。境を犯す。その罪誅と容れ。とりども。若又心を改めて前非を悔。もく國を回く。已が境を守り。鳥足の勢ひどりて百姓塗炭の苦みを免まし。汝が二命。よく生ることを得て。戎馬の乱の行方を休

孔明八卦の陣を  
布仲達が軍兵  
を生捉尽赤  
裸にして顔  
追えり



べーと。よきアリケヨ。孔明大々笑ひて曰く。汝と先帝孤と託  
ちるの命を受。安んぞ力せ竭一て賊を討ざらん。汝ホニシテ  
らモ一て必ず漢の為ニ滅ぼさう。汝が先祖もまた漢の臣  
下と一て世々漢の禄を食へり。今ちの本ニ報をうることあり  
ぞ。却て反國の逆賊を助く。我何ぞ誅せざらんと答ければ。  
司馬懿。そぢしやう。再び言を生むとあたふぞ。我今汝と雌雄を  
決せん。汝もあらざ奇兵を出まととあく。正兵をりて明々戦ひ。  
勝べ。我ちうて再び大將たらド。汝も又負ばず。本國も回て  
重て境を侵むとあれ。我必を害を加へトし。よびりけれど孔  
明が曰く。汝大將をたゞやん。陣法をたゞやん。又兵を  
なきやん。司馬懿曰く。まづ陣法を戦へよ。孔明曰く。汝

まづ一陣を布。見物せん。司馬懿をあへち中軍に入。黄ある旗  
をりて。兵を分配し。又馬を止めて。汝も陣を。南内九ろくと  
問け。孔明笑ひて曰く。君が軍中。末いの大將も。の陣を  
志。志ある。あれ乃ち混元一氣の陣也。司馬懿が曰く。汝も一陣を  
志け。見物せん。孔明をあへち中軍。又羽扇をりて。一度招  
き。入車を止めて。曰く。汝よ。我陣を志す。孔明が曰く。汝  
も。あらざ。志。又よ。の陣を攻破らん。司馬懿が曰く。我已  
ヌ。陣法をあき。如何ぞ。あき。と。破らざらんと。乃ち中軍。又  
入。戴陵。張虎。樂綰。三人の大将。よび。今孔明が布たる陣。又  
ハ。門。あり。休生。傷。杜景。死。敬。馬闖。と。号を。開。休生の三門。ハ吉。よ

一。傷杜景死敬鳴の五門ハ凶。東の方へ生門。西南の方も休門北の方へ開門。中の三門より打て入る。此陣うちもを破るべ。汝ホ三人よづ生門より打入休門より切て出。又開門より取てく。一。蜀の勢尽く乱走らん。相構て志をもげぬして敵笑。一。蜀の勢尽く乱走らん。相構て志をもげぬして敵笑。云けとば。三人の大將計を受て張虎前々を。云うとあられと云けとば。三人の大將計を受て張虎前々を。戴陵中々備へ樂紳後々そぞく。かの三十騎の精兵を率一。かれと喚く東の方ある。生門より打て入け。双方の軍兵一度々鼓を鳴し。喚を造く威を助く。張虎まづ三十騎を引く。蜀の陣え蒐入けるが。中の陣たゞ連城のてとくよて。衝て通らんとも。也。蜀の卒々西南の方へ打向あと。焼きたる戴陵と樂紳とが六十騎の兵も已々陣中々切く入衝。ども討ども通り得を。さあ

蜀の勢も射立らむ。重く畳むとて。然所も門戸多くりけれバ三人の大將東西南北々度と失ひ大勢も。又。所も集ることを得ぞ互々自ら騒乱。愁雲漠々慘霧濛々とて。喊の色あく。よひきける。九十余騎のものども。ひしくと一人も残らず生捉。孔明が前々引出。蜀の諸將孔明。も内て此の只今陣を侵れて。ひと告げ。孔明が曰我たとい。あとは。者を生取。ひととも。さまで奇妙と。ひからぬ。汝ホが命を助けて回ら。む早く回く。司馬懿。今乃どく。安んじ。我。及。再び兵呂を詠。學問を加へ。のち。又。戰ひ。決せよ。せ。汝ホと。我陣を侵。汝。き。汝のまき。回さんも無事。うとて。九十人の馬。の具を剥ぐ。

赤裸より。その顔も墨をぬる。追立て回一けど。司馬懿をと  
せて大々怒り。我太の不ふ生く。ノトノ戦ひを。あんの面目あつて  
人見んや只命をとて戦へと。自ら劍を枝く。百余騎の大將を。前後左右と囲み。大軍をたゞ一手あへせ。太山の崩が  
とくえ討ぐ。クリケヨ。忽然と。後より鼓のあえ天を動  
いた。喚の邑地を震え。蜀の大將関興一軍を引く。け生たり。司  
馬懿兵を分く。拒んと。孔明大軍を延べ直進。喧  
き叫で戦ひける。魏の勢威も乱立。蜀の大將姜維もす  
ひもよろざる方す。一軍を引く。蒐たり。司馬懿大もあ  
らき。三方す。攻めしと。討るもの殺す。さんぐえ  
逃なり。蜀の勢勝のりて。あとを追て五六十里。司馬

懿は。とくく。とく。と出で。討をやのも顧だ。手負とも扶けを。  
渭水の陣も逃入。再出ると。あくだけ。孔明へ勝軍を取る。  
祁山の陣も回る。あたのと。永安城より。李嚴をばしく兵  
糧を運送。と。都尉苟安といふのと奉行とも。苟安酒と  
さとびて路を急り。日限十余日延引。孔明を衆せんと。て始  
敵を奪ふ。ともあらんと危く。そのゆゑ遅へり。と云けれ。孔  
明怒く。曰く。我軍中も。兵糧を以て大事と。已く法を止めて。三日  
誤も。徒罪も處し。五日誤り。斬罪も處し。汝令十日誤り。あ  
んぞ。釣を飾る。やして引半て斬せ。と。長史楊儀が。荀  
苟安は。李嚴を用る人あり。おちくの錢糧を蜀中も止めて功劳

よとく大ちうりきへと殺され。今うち後兵糧を生むべし。  
あそくうちど孔明ちうりく死罪を宥め八十杖むち打く。  
放しけり六苟安にく責められ心の中々怒を含む。夜中々五六  
騎を引く。魏の陣へ降る司馬懿よりへとく對面一けり。苟  
安地へ拜して。右のあらむきを詰る。司馬懿曰く在さる。も  
んぞうども孔明もとどう詐の計をもれど我今汝を信  
じて。汝を一國の為を功を立す。そのとた天子へ奏して。も  
う用ひん。苟安曰く某あふりをあつて。功を立し。司馬懿が曰  
く汝再び蜀の都へ。諸不々流言にて。孔明君を怨るべと  
ありて。自ら蜀の主と成ると企る由をいふ。後主劉禅の心を  
疑せ。孔明をや一返さーと。汝が功あらん。苟安。許諾して成都

よ入例の韜姫をりて志を得たる内官又賂をあし。諸所々流  
言を散遣けり。後主の事てきり。驚て色を失ひ孔明も  
一困て奪のんあらば。我いふをもきと悲む。内官をあけ  
る。早く孔明をや。返さと。その兵權を削ぐ。篡逆の禍を免  
れり。後主の大義又志たぐ。敷を下して直に孔明をや。返した  
え。バ蒋琬をまことずして奏して曰く。丞相師と生とよ。累々戦ひ勝て  
魏の勢をあがどろき怕る。今いとう事ありて。や一返一ゆきを後  
主宣ひけり。朕一大事の機密あり。直に丞相又問んと。節を  
持て。夜と日と繰く。召しける。使命祁山の陣へ。勅命  
を傳へけり。孔明天て仰ぐ。大々哭き。主上御年いとけあつて  
て。倭人をうりゆ事を行ふ。我はよ。志きり。戦ひ勝て已く大功

と立んと。何ゆ。よび回り見るや。若回らざると。臣とて  
君と數く。似とり。今又回るとたへ祁山再び得がくと云けれ  
ば姜維が白く。大軍一度も退く。司馬懿ひきもひく乗て。おれ  
来る。孔明白く。我令退て。圍も回る。兵を五手。分ぐ。路を  
易く退くべ。今日えがたの陣を引退き。只一千の兵を。どうぞ。  
二千の竈をあらせ。次の日へ三千の竈をあらせ。其次の日へ四千の  
兵を損せ。毎日兵を退け。却て竈を一倍を。楊儀が白く。  
ひし。孫臏。兵を添て。竈を減ぢる法を用ひ。卒を寵消を討  
て勝とを得たり。今巫相兵を減じて。却て竈を添う。ひ  
いも。もへど。孔明が白く。司馬懿。兵法。通を。我ありぞく  
であるとも。肯てうろづくへ追来じ。よくく虚実を伺ひて。

そちの追來らん。されども。伏兵あらんとて。怕ふく。我宿り。  
跡の竈を。板へん。毎日一倍を。と。板の兵と。ちくて。追手。計  
の計。ちうと。疑く。あらを。退ひて。本陣を。守る。我。静よ  
回る。と。たゞ。何ぞ人馬を。損ぜひや。とて。五路。分。而。引退く。  
えのと。司馬懿。本陣を。固く。守り。苟安が。計成就。せ。孔明  
さ。まらを。退くべ。ものと。跡。す。追討。せんと。伺ひ。居たる  
不ふ。専候の兵を。せ來り。蜀の勢。尽く。あらを。きたりと。告げ。司  
馬懿。曰く。孔明。まへや。計多し。たのぶる。大。打勝。く。何ぞ今  
退く。ま。油断せ。計。中。ふき。ぞと。蜀の勢の。捨置たる。陣  
の邊。と。まく。同。ひる。近。邊。ま。伏兵の。やう。も。ス。ヤ。と。ど。へ  
ひけ。ま。自ら。百余騎の。猛将。引く。その内へ。と。竈を。うぞく。



急  
の日  
限を  
越す  
糧  
運送  
兵  
安  
萬  
萬  
兵  
急  
の日  
限を  
越す  
を  
く

次の日又進んで。昨夜蜀の勢の宿りたる跡の竈を殺へ毎日竈をかきふる。又日ごと二倍。司馬懿舌をまひて。やけく。と。是れ孔明が計あらんとあらう。又果して然り。昔孫臏が竈と減せし法を效く。詐りて引退く体をほ。兵を添え入る。竈の殺一倍とも是へ疑ぎりて。まうと追来らんと四方より大勢と伏く。討ん爲う。我より是を追へ必ず龐涓が馬陵の患。又ハ。孔明さうと退ぞ。能く本陣を守りとて渭水の陣。又引籠ぐ。一人も生ざりけ。ねちと孔明が大軍へ一人一騎も損ぜざりて。志高くと漢中へ入る。その後川口の人をたり。孔明兵を退る。と。次第。又兵を減じく。只竈をかうと増なりと告げ。司馬懿天と仰ぐ嘆じて曰く。昔西。又曰く。今日よもじと。遂に洛陽へぞ上りナラ。

